

目の前の子どもたちと対話のある教育実践を

～今、なぜ集うのか～

学校体育研究同志会
澤 豊治

1. 良い体育の授業とは…

- スポーツの面白さに触れさせる
- スポーツの持つ力を理解させる
- それをつくり出す要素に気付かせる
- スポーツ文化が人間をより人間らしくする事に気付かせる
- つくり替える事ができる文化であるということに気付かせる

◎このことを子ども達と一緒に考えていく…異質共同のグループ学習

2. 良い（体育）教師とは…

- ◎教育の願いがある
- ◎騙されない本マモンを見抜く子ども育てるという視点を持つ
- ◎自分自身がだまされない教師。＝子どもにうそをつかない教師

3. 「どついたらろかのサッカーからようきばったの」のサッカー

への実践はどうして生まれたか？

- ◎子どもの様子
 - ・子どもの実態との対話
 - ・子どもの生活背景対話
 - ・子どもの育ちそびれとの対話
 - ・子ども、父母の本当の願いとの対話

◎どついたらかサッカーで教えたかったこと

- ・サッカーの本当の面白さを伝えたい。スポーツの面白さとは何かを伝えたい。(相手、敵がいるから面白い。サッカーを楽しむための一番大切な要素であることに気付かせる)
- ・そのためには何が大切なのかを伝えたい(対等・平等・公平・公正＝スポーツルールに込められた精神とも言える)
- ・立場の違う者を理解し認め合わせたい。
- ・仲間とは何かを伝えたい(喜びや幸せはみんなでつくり出していくもの。困難や苦労は、みんなで話し合っ解決していくもの)

*同志会のグループ学習というイメージではないが、学習集団としてグループ学習のイメージを捉えていた。

2014年松島大会グループ学習分科会基調提案(森)のことばを借りると澤実践は、

- ・異質共同
- ・共感的交流と合意形成
- ・共通の学習内容
- ・技術、文化認識を介した協同
- ・問題や矛盾から学習内容を導き出す
- ・自治・自立の力の形成

◎学ぶ職員集団

この実践が生まれた背景

「明日の素」の取り組み

◎保護者、地域との連携

- ・親フォーラム(夜間運動会)
- ・3000万教育署名の取り組み
- ・管理職も含めた教師集団づくり

4. 平和学習・卒業式の取り組み(真実との対話)

◎25歳平均の担任団と学び

それまでの修学旅行

◎全国同授研の研究指定

◎物見遊山の修学旅行との決別

◎毎学年担任学習会

- ・一人1冊テーマに関する本を読んでくる（南京大虐殺、広島、長崎原爆、沖縄戦など
→知れば知るほどどうしても子どもに伝えたいという思いが担任団から溢れ出てきた。
- ・原爆で亡くなった方の数で織り上げた折り鶴の長崎平和記念像モニメントの制作

- ・感動の修学旅行

異例の展示館での時間延長

信じられない光景…ヒヤヒヤもんの講話

「折り鶴合唱」涙する生徒とやんちゃ坊主

辞表を出し担任で学級崩壊を起こした2度目の担任に挑戦した若い音楽家女性教諭の号泣

* 子ども達の本当の「真実との対話」を子ども達とともに若い教師もすることで彼等の奥底に眠っていた優しさ、若い教師達が本当はどんなセンセになりたかったのか。本当の教師としての誇りとはどのようなものなのかわかってきた。そんな気がしました。

5. よしたかくんという子…

◎入学前のエピソード

- ・本人の小学区での様子
- ・ 父母を学校に呼びつけて…

◎入学式の日々の体育館

◎オリエンテーション合宿のこと

◎夏合宿の日のこと

◎免許とって好きな女の子と結婚するために…

◎卒業式にいただいたお母さんからの手紙

6. 今問われる「教育」「学校」「本物の教師」

最後にどうしてもお伝えしたいこと

- ・現在は「戦後」か「戦前」なのか
- ・私たちは過去の歴史から何を学ぶのでしょうか？

・「あの日の授業」…

国民として、教育者として「バカ」になるな「騙されるな」
「偽善者」は「偽善者」の顔をしてやっては来ない。必ず「善人」の顔をしてやってくる。
戦後民主教育の輝かしい歴史を牽引してこられたのが大阪の先生方。

その歴史を継承・発展させるためには「学ぶ仲間」を増やし大切にして

今大切なのは、学びを「深めること」と「広げること」

自分の良心を萎えさせない、ごまかさない、諦めないために「仲間」は、絶対に必要。
だから広げることをもっと一人ひとりが自分のためにも真剣に考えていきましょう。